

Hi! アンドレです

社会教育指導員
アンドレ・エスタニスラオ

タイムマガジン（世界中で非常に有名な英語雑誌）の中で、中国語を知る重要性について議論していました。記事には英語を話す人にとって、難しい言語である中国語を勉強することが非常に重要であると書かれていました。なぜなら、中国が世界で着実に経済そして政治上の超大国になっているからです。記事の内容に私は賛成ですが、レポートで第二言語として英語を知る重要性に焦点を合わせることができなかったことを残念に思いました。アジアの中には第二言語に英語を話す国が2ヶ国あります。一つはシンガポールであり、もう一つはフィリピンです。私はこのことをとても誇りに思っています。フィリピンの子どもたちは学校（幼稚園）に入学するとすぐに英語を勉強し始めます。そして、多くの家で英語が話されるので、ほとんどの子どもたちがその前から英語を学んでいます。例えば、私の甥（ジェダイ）は4歳ですが英語が既に流暢です。そしてテレビ番組のほとんどが英語です。さらに、映画は字幕のない英語で上映されます。

フィリピンの中での英語の利点は、様々な国々で勉強することができ、私がここ小野町にいるように人生の中で多くの重要な機会を与えてくれることです。私が公民館で英会話教室を提供できることもその1つです。これらのクラスを持つことによって、学生

たちは私の友達になり、異文化について学び、そして他の英語を話す外国人とコミュニケーションをとることができます。私は、言語を学ぶことと言語を話すという文化を理解することの間には、強いつながりがあると思います。また、彼らが私から学ぶのと同じように私は学生から同じくらいたくさんのお話を学ぶことができるので、指導者として心から感謝しています。毎回10～15分間、2人の学生が、彼らが話したいことについて英語で自由に話をします。最近行った旅行、趣味、若かったときの生活など……。英会話教室は国際理解と友情を促進するためのとても素晴らしい経験だと私は感じています。

Let's enjoy English together !!



公民館の英会話教室のようす

私が小野町・平館に住んでいたのは高校卒業までのわずか18年間。その後36年間は数年に一度帰るだけ、それも磐越道が開通してからは車での日帰りが大半で、落ち着いて小野町の町並みを見る機会もほとんどなく、小野町には疎遠になっていました。仕事の関係とはいえ大変申し訳ないことだと思っています。このような私に、今年9月「小野町ふるさと文化の館」で展覧会を開催してくださるという身に余るお話があり大変ありがたいことだと、小野町には感謝しておりますし、ふるさとを大事にしないでほしい知らされた感があります。

その展覧会の打ち合わせのため文化の館に訪れた時、文化の館が鉄工所の跡地に建てられた建物とお伺いし、窓から裏側を見ていた時、懐かしい風景が目に入りました。通学路にしていた右手に磐越東線の線路・左手に鉄工所・正面に変電所が見える小道でした。小学校から中学二年生までの通学路の一部が今も変わらず残っていたことです。思わず「懐

ふるさと小野町会 ふれあい通信

ふるさと小野町の思い出

佐伯良一（司朗）

（平館出身）

かしいなあ、ぜんぜん変わっていない」と言っていました。中学三年生の時には統合により一学年10クラスのマンモス校になり、小高い丘に新しく中学校の建物が建設されました。三年生だけが移転した校舎で工事中の騒音の中で勉強したことも懐かしく思い出されました。このように幼い時の思い出とはその場所その場所に行くと思いつく出されるもので、ふるさとがあるということ、心を豊かにしてくれるものだなと思いました。

小野町の感想は、町中の道路は変わっていても周辺の町並みは変化してきており、殊に文化や福祉に力を入れている町の姿勢、かつかかわれました。わたしはふるさと小野町に文化面で何かご恩返しできたらと思う、今日この頃です。

昭和27年平館生まれ
現在の仕事

宮内庁文書専門員

（天皇皇后両陛下の祐筆）

國學院大學栃木短期大学講師

現代書道研究所長

など

